

教員免許更新制が教員志望に与えた影響の検証*

勝原大起

指導教員 矢内勇生

研究背景

日本では教員免許の更新制度は廃止された。先行研究は教員免許更新制度は教員の負担であることを明らかにした。しかし、教員免許更新制度の教員志望者への影響は定量的に明らかにされていない。

研究目的

教員免許更新制度による教員採用試験受験者数の構造変化を確認する。それにより教員免許更新制度が教員採用試験受験者数に与える影響を検証する。

研究方法

教員採用試験受験者数が教員免許更新制度の前後で変化したかどうかを、各校種についてベイズ推定する。結果変数に教員採用試験受験者数の時系列データを用いる。モデルには誤差項の1期前との自己相関を考慮するため自己回帰モデルを用いる。

分析結果

全ての校種について2009年における経過年数の係数の差分がマイナスになる確率は50%を超え、その差分の平均値もマイナスの値であった。高校について2007年における経過年数の係数の差分がプラスになる確率は50%であり、マイナスになる確率も50%であった。そのため2007年の高校における経過年数の係数の変化は定かではなかった。

考察・結論

全ての校種について教員免許更新制度が教員採用試験受験者数を減らした。高校においては制度による教員採用試験受験者数の減少は抑えられていた。これは高校の専門性の高さが原因の1つであると考えられる。

* 本研究は指導教員である矢内勇生先生の多大なるご指導、他の先生方のご助言、友人の協力のもと完成に至りました。感謝申し上げます。ありがとうございました。